

世田谷村日記

石山修武

九月六日 つづき

十三時カルティエ社来。カルティエ社の本をいただく。ブランドの歴史というのも興味津々だなあ。十三時半嘉納先生と稲門建築会の件。十五時明日の渡辺邸でのスライド会準備。十七時前終了。ドシャ降りの中を世田谷に帰る。

九月七日

午前中地下。スタッフと話す。いつも独人言みたいな状態だが、時々独人言でさえも新しい考えが生まれる事があるから。十八時杉並渡辺邸「唐桑臨海劇場」スライド会。六〇人位の人が集まった。渡辺さんの人徳だろう。一九八八年からのアノ六年間は私にとっては大きな無駄のようなものだった。しかしながらやってしまった事の全部は無駄と言えは無駄だし、そうでないと言えはそれ迄の事。

九月八日 日曜日

昔の抒情歌曲には気品があったな。俺の友人達も皆変だけれど一様に気品のカケラはあるな。

九月九日

朝九時過高橋工業来世田谷。地下で打合わせの後富士山へ。聖徳寺現場。墓の最終サンプル施主立会いの許見る。ステンレス製

で、タンクローリーが八八台地面に埋まっている感じ。どうなることやら。しかし、墓地の一つのモデルにしようとしているのだから、これ位の事はしなくては。ザンザ降りの中世田谷に帰る。今年の天気は狂つてるとしか思えない。ブレードランナーの雨を思い起こすな。新世紀に本格的な世紀末が到来している。